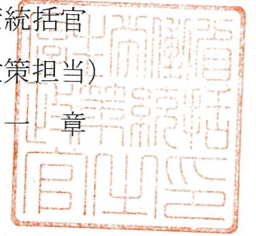


政統発 1117 第1号  
平成29年11月17日

日本医学会 殿

厚生労働省政策統括官  
(統計・情報政策担当)

酒 光 一 章



第7回厚生労働省 ICF シンポジウム  
「ICF（国際生活機能分類）活用で拓く未来社会」  
協力について（依頼）

時下、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

厚生労働統計の推進につきましては、格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ICF（国際生活機能分類）は、2001年5月にWHO総会で採択されて以来、普及を促進するための研究開発が行われてきており、現在では2006年にWHO-FIC（WHO国際統計分類）ネットワークの中に設置された専門家会議であるFDRG（生活機能分類グループ）において、その改善や普及啓発、具体的な活用事例などの活発な議論が続けられています。

また、ICFは我が国においても「疾病」と「生活機能」両面からの評価を可能とする共通言語として注目を集めて、利用が進み始めているところです。

わが国におけるICFの普及と実用化を目指して、本シンポジウムをこれまでに6回開催し、普及のベースを着々と構築してきたところでありますが、こうした動向を加速化するため、今回、WHOと日本WHO国際統計分類協力センターの協力事業の一環として、WHOのICF活用のキーパーソンを招聘することとしました。

ICFの活用最前線にいる担当官が策定した行動計画の中で具体化されたグローバルビジョンを含む未来像を共有することにより、本シンポジウムを更なるICFの活用を促進するための一大契機とします。

また、一般参加者に向けてICFの活用状況を報告するポスターを公募し、会場で掲示発表することにより、ICFの普及啓発と利用者間の情報交換の場となることを期待しています。

つきましては、本趣旨にご理解を頂き、本シンポジウム開催に向けて、貴会内や関係者の皆様に対する本シンポジウム開催の周知等のご協力を賜りたく存じます。

何卒ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。